



都市計画と交通

第10回 2月15日 小西敏亨氏(三菱地所)※“大手町地区における地域冷暖房”出席12名。

公害抑制、資源有効利用等の目的で、昭和48年に計画され、総工費180億円で実施が進められている東京大手町地区の地域冷暖房(本年10月完工予定)について、工事・設備計画の概要と、その考え方、効果、行政との関係などの具体的な説明を聞いた。

その中で、冷水の供給については(暖房と異なり)、少し距離が離れると、商品価値の保持がむずかしく、購入者にとって集中によるコストメリットがないので、むずかしいところがあることを知った。

第11回 3月15日 三木淳氏(トヨタ自工)“自動車総合管制”出席11名。

工技院の大型プロジェクトの一つとして進められている研究の概要を聞いた。これは、車載の送受信機・表示装置と、管制室のコンピュータに接続された路側の送受信機の組合せで、ドライバーが目的地コードを送ると、各交差点での(混雑を考慮した)適切な進行方向の案内(このためのテーブルは、15分ごとに書きかえられる。)が得られるなどのシステムである。車載機器普及率と効果の関係や、システムの評価方法(実験における運転者の選り方)などについて議論が出た。

第12回 4月19日 宮崎邦夫氏(国鉄)※“国鉄の浮上式鉄道の開発状況”出席9名。

浮上式鉄道各方式の簡単な解説と、国鉄における開発の歴史(昭和37年以来)のあと、宮崎県に建設の実験線の話を中心に、超電導磁気浮上鉄道の車両および地上設備の説明を聞いた。エネルギー消費については、在来のもよりスピードアップすれば当然増すが、試算では、出発地から目的地までの所要時間が同じくらいの飛行機と比べ、この方式の鉄道の1座席当たり消費エネルギーは少ないとのことであった。

第13回 5月17日 宮元敏男氏(川崎重工)※“新交通システムの現状”出席12名。

地下鉄・モノレールとバスの中間の輸送量領域をカバーする中量輸送システムであって、公害を減らし、将来の経営改善をもたらすものとして期待されている、いわゆる新交通システムについて、先頃再訪された米国での実用状況と、国内で建設が具体化している神戸(ポートアイランド)および大阪(南港)の計画を中心に、その現状を聞いた。

(※印は外部講師)

政策科学

4月例会 4月15日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総研会議室、出席9名

(1) 研究発表「政策科学と目標設定」(早大・縣公一郎氏)：政策科学は思想性と哲学性をもつべきであり、それには目標設定方法の研究が重要であること、目標分析には公共性・妥当性・効率性の三基準があると説明。

(2) 研究発表「政策科学と目標設定・1回目」(防衛庁空幕・片山隆仁氏)：行動科学は意思決定に必須のデータを提供するものと規定し、通信理論の図式を用いて議論を展開したが、メッセージ(ニーズ)→シグナル→観測と解釈→判断のどこに行動科学の役割を位置づけるかで見方がわかれた。

5月例会 5月20日(土)、出席9名。

(1) 論文紹介「米航空宇宙技術者再就職訓練の教訓」(山武ハネウエル・小林守信氏)：これらの失業者は専門細分化、原価意識の欠如、失業前の高い給与のため予想に反して再教育と転職がむずかしく、事業としてペイしないという実情が紹介された。

(2) 研究発表「基地対策の戦略と戦術・4回目」(防衛庁空幕・齊藤昂氏)：シリーズの最終回として日本の政策決定の特性をあげたうえ、時間的要素と先見性の重要性を指摘し、対象者の意図、共通の利益と不利益、交渉の目的と過程、判断基準、分析手法、関係法規との関係を交渉戦略のモデルとして提示した。